WEEKLY 2023 － 2024

Rotary 伊那ロータリークラブ

事務所　伊那市西町5016-2　℡(72)0077　例会日　毎週木曜日　会場くぬぎの杜　℡(78)1121
会長 山田　益　幹事 唐澤幸利　会報委員長本田敏和　**第３００９回 例会2023.11.16　No.1669**

世界に希望を生み出そう

2023-24 年度 RI テーマ

CREATE HOPE
In the WORLD

ソ　ン　グ　それでこそロータリー

会 長 談 話　山田　益会長「私の映画鑑賞から」

私の家族は戦後昭和 23 年、父の出身地名古屋から母の出身地宮田村に移ってきました。私は小学校から高校卒業まで伊那谷を飛び回って遊んでいました。父は名古屋時代から映画が大変好きで伊那市に「中劇」が出来てからは本当に良く映画鑑賞に行きました。全て洋画ですが西部劇からミュージカルまで、毎月映画が変わると私も連れてもらっていました。当時、小中学校生は許可されていませんでしたが家族と一緒なので夕方行きました。

日本映画では学校で学年ごと当時宮田に有った「宮田劇場」へ行って、見た映画は著者：壷井栄の「二十四の瞳：香川京子」「山椒大夫：田中絹代」「喜びも悲しみも幾歳月：高峰秀子/佐田啓二」などでした。この頃私は小学生でしたが、大映映画会社が宮田村に撮影に来ました。映画は「伊那の勘太郎」、主演は「長谷川一夫：音羽信子」で撮影場所は伊那峡入口の掘割りのところ。大変な人でしたが、兄は長谷川一夫を撮影できて首のところの傷が見えたと自慢していました。こんな時歌では「小畑実」が「勘太郎月夜唄」が空前の大ヒットなりました。余談ですが戦争末期、捕虜の日本兵に米軍が名前を聞くと皆本名を言わず「伊那の勘太郎」と言うので「一体伊那の勘太郎は何者だ」と言ったようです。

また終戦後の連合国総司令部（G.H.Q）は、占領政策の一環として民主化促進プログラムとして、16mm 教育映画「ナトコ映画」を国内全国に貸し出していました。

そして私が今日まで見てきた映画で最も大切で現在の世の中に通ずる事柄が入っている日本映画は、1952 年（昭和 27 年）「東宝」製作、監督は黒澤明、主演は志村喬でモノクロ映画「生きる」です。黒沢作品の中でヒューマニズムが最も頂点に達したと評価されている名作で、この題名通り「生きる」という普遍的なテーマを描くとともに、お役所仕事に代表される官僚主義を痛烈に批判しています。この作品は 50 年代の黒澤作品の中で唯一、三船敏郎が出演していない作品である。

誕　生　祝

小坂栄一・三澤清美
山田　益・小松献臣
増田　清・山崎秀亮
原　年弘

結婚記念日祝

塚越　寛・増田　清・宮下　裕
唐木一平・平澤泰斗・荒木康雄
鈴木正比古

在　籍　祝

小坂栄一(56)・清水紀光(19)
大石ひとみ(7))

幹 事 報 告　別紙をご覧ください

委員会報告　「ロータリー顕彰」について

山田　益会長より、第 45 回ロータリー顕彰者の推薦について説明がされた。

「雑誌紹介」ロータリー財団月間
11 月号「ロータリーの友」赤羽弘之副会長

横組み P5～ロータリーは中東と北アフリカ地域の平和構築を支援する新たな一歩を踏み出します。P7～グローバル補助金のプロジェクトの案内。P16～台北芙蓉 RC が援助した、「大田区のシングルマザーに食育と就労機会を」というプロジェクト報告。P44～2025-26 年度 RI 会長ブラジルのデ・カマルゴ氏が選ばれた記事。**縦組み** P4～「緒方貞子さん」の記事を紹介。

「伊那中央 RC との合同ゴルフコンペ」について
唐木　章ゴルフ部幹事より、先に開催されたゴルフコンペの結果が報告された。

出 席 報 告　会員数 57 名　内出席免除者 19 名
出席者 29 名　事前メーキャップ0名　出席率67.44%

ニコニコボックス

・山田　益　董さん、古川様ようこそ伊那 RC へ。
・古川静男様　本日は米山奨学生カウンセラー

として訪問させていただきました。
・神山公秀　保健福祉の寄付功労で、伊那市より表彰を受けました。
・中川博司　古川様、董さんようこそ伊那RCへ。
・唐澤洋祐・唐木　拓・八木択真
伊那市商工会議所主催で12月2日「ものまねライブ」を開催します。
・ゴルフ部
ラッキー賞
赤羽弘之・平出吉範
神山公秀・三澤　聡
菅　靖世・八木択真
小林旬子

卓　話

米山奨学生　董　澤坤さん　演題-「たく話」

皆さんこんにちは！松本西南RCにお世話になっております董澤坤です。中国から参り、今信州大学経法学部に通っています。2020年の十月，中国山東省の青島から日本に来てから四年目になります。好きなものはプラモデルと人と話すことです。

2021年の四月は信州大学に入り、松本での生活を始めました。最初来たときはすごく不安でした。なぜかというと、松本に申し訳ないと思いますが、都会育ちで田舎で暮らすのは人生初です。しかし、三年間ここに住み、田舎だからこその魅力を知り、帰省の時は逆に故郷が慣れなくなりました。今の長野県は私にとって第二の故郷になり、長野に来てよかったと心から思うようになりました。

最近の研究テーマは「データ処理、統計学(R)」近い将来の計画は「大学院進学」将来の研究テーマは「行動経済学」です。

私の故郷は青島で、十九歳まではずっと青島に住んできました。私はなぜ日本の大学に進学したかというと、幼稚園児の頃、テレビ局で日本のアニメや特撮がよく流されて、その時まだ子供だった私は、想像力が溢れる日本番組に魅せられました。母が当時務めた会社も日系企業であって、日本に出張するたびに、日本産の玩具などのお土産をよく買ってきたので、日本のことを好きになりました。また、日系企業に就職していた母が若い頃の夢は日本に暮らすことであって、母が叶えられなかった夢を引き継ぎ、私が実現させたい気持ちもあります。先にも申し上げたように、子供の頃日本のテレビ番組はテレビに流されたおかげで、私の周りや同じ世代の中で、日本に好感を持ち、日本に行ってみたいと思う人が多いです。

しかしながら、日本への印象には地域差、と年齢差が存在します。残念ながら中国の内陸部や中老年層では、歴史的な原因で日本に悪い印象を持つ人がいまだにいます。うちのじいちゃんもその一人でした。楽しい幼少期を過ごした私と対照的に、じいちゃんが満州国建国直後に生まれて、日本人は侵略者である意識が根強かったです。後に海軍学校の教授となり、軍の関係者のじいちゃんにとっては、日本に悪い印象を持つのは当たり前な話かもしれません。それゆえに、当初私は中国での進学をあきらめて、「敵国」である日本に留学したことにものすごく反発をしましたが、楽しい留学生活を話したり、RC の素敵な方たちについて話したりすると、じいちゃんも日本のことを分かるようになって、日本によい印象を持ち始めました。日本嫌いと言っても、日本のことが嫌いなわけじゃなく、ただ日本への印象が日中戦争の時にとどまったからです。また、私の留学生活を見て、もともと留学に一切興味がない、私のいとこも留学してみようかなと思い始め、今日本の大学を目指して、日本語を学び始めました。自分が日本のことを中国に届け、日中交流に貢献したと実感して楽しかったです。これからも、私の第二の故郷と第一故郷の中国の交流を深めたいと思って、米山奨学生として、将来日中の架け橋の一人となり、日本のことをより多く中国に発信して、日中関係を促進させたいと心から思っております。

米山奨学生となった今から過去に振り返ってみれば、日本に留学してよかったと胸を張って言えるようになりました。米山奨学金は私にとっては、ただの金銭的な支援じゃなくて、お金より大事な「コネ」こそが私にくれた一番大事なものだと考えております。まずは地域的な「コネ」留学生である私は、地域につながる機会がもともと滅多にない事でありましたが、ロータリークラブの奉仕活動に参加させて、自分も地域の一員であることを改めて実感しました、ロータリーという組織も改めて知りました。次は人の「コネ」です。ロータリークラブで素敵なロータリアン達と出会い、皆さんとお話ができて、日本語レベルはまだまだ未熟な私に対しても、話をゆっくり聞いたり、私でも理解できるくらい優しい日本語で話してくれたり、心から感謝を申し上げたいと思っています。

これから一年半の間、信大での留学生活を楽しみながら、日本のことをより深く知り、絆を深められたら幸いだと思います。